

思いやりと優しさのある、良質で安全な医療を提供いたします。

HOKUTO TIMES

社会医療法人北斗会 大洲中央病院広報誌「ホクトタイムス」

No.

49

2017/01



謹 賀 新 年

本年も大洲中央病院を
どうぞよろしくお願ひします。

社会医療法人北斗会 大洲中央病院 理事長 院長 大久保 啓二



新年あけましておめでとうございます。

昨年は大洲中央病院として大きな転換期となった1年となりました。一つはDPC制度の導入病院として再出発したことにあります。DPC制度は、平成15年に急性期病院の標準的な報酬制度として始まり、現在まで急性期医療を担う病院の基本的制度として広がっております。また、同時に7:1看護体制に移行し、今まで以上に手厚い看護体制の充実にむけて努力しているところです。また昨年11月には、日本医療マネジメント学会第7回愛媛県支部学術集会を病院内で開催させていただきました。県内全域から216名の参加者をお迎えし熱気ある一日となりました。この学会理念にもありますように、より良い医療提供の向上に向けての努力を今後も継続して取り組んで参ります。

本年も昨年同様、引き続いてのご協力のご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

日本医療マネジメント学会 第7回 愛媛県支部学術集会の開催

テーマ ^{ふるさと} **故郷を支える医療** ～地域医療を守るために今、何をすべきか～



平成28年11月23日に、当院で「日本医療マネジメント学会 第7回愛媛県支部学術集会」が開催されました。この学会は、医療マネジメントのノウハウやツールを研究・開発する目的で活動していた研究会が基盤となり、平成11年に、医療現場の課題を取り上げ、研究活動の更なる拡大を目的に設立されました。その活動は徐々に全国へと広がり、平成21年には愛媛県支部が立ちあがりました。当院の大久保啓二院長も、学会活動の趣旨に賛同し、設立当初から役員として日本医療マネジメント学会愛媛県支部の活動を行っています。愛媛県内各医療機関で今まで6回の愛媛県支部学術集会が開催されるなかで、設立当初50名程度であった愛媛県支部会員が現在では200名を超え、この学会活動も県内全域に徐々に広がりを見せています。今回は、この学術集会を当院が担当し、南予地区では初の開催となりました。

テーマは「^{ふるさと}故郷を支える医療」

日本の各地方では、急速な人口減少と高齢化を迎え、地域経済が衰退すると同時に医療基盤そのものが崩壊しつつあります。このような状況の中で、自分の故郷を守るためにいかにして医療体制を維持していくかという課題に対して、各医療施設が様々な取り組みを行っています。この学会では、毎年メインテーマを掲げ、それについて多くの会員が研究の成果を発表しており、今年のテーマは、「故郷(ふるさと)を支える医療 ～地域医療を守るために今、何をすべきか～」としました。当学会の理事長である宮崎久義先生の特別講演、市立宇和島病院院長の梶原伸介先生に基調講演をお願いし、2題のランチョンセミナーと

41題の一般演題で、時間いっぱい熱心な討議が行われました。南予地区での初開催ということもあり、初めて演題発表を行った施設や学会の活動に興味を持って参加された非会員の方々もたくさんおられ、県内全域から216名の参加をいただきました。

県内全域から一般演題41題が発表され、熱心に討議

一般演題では、クリティカルパス、医療安全、医療の質、医療情報、教育、病院運営、患者サービス、看護業務、検診業務、その他と幅広いカテゴリーの中で、それぞれマネジメントの視点での取り組みが発表されます。今回は、テーマに沿って、地域医療連携における地域連携ネットワークシステム、在宅医療や退院支援、看護業務の中ではチーム医療、人材育成等の取り組みが多く、南予の医療施設からは退院支援に向けての地域連携や情報共有の充実等の発表が多く行われました。医療情勢においては、在宅療養への転換が進められていますが、核家族化で独居や老々介護等の問題から難しい事例も多く、各医療機関や施設では、その対応に苦慮しているのが現状です。発表の中には、在宅療養を目指して医療とリハビリが行なえるような機能を有した病棟の導入や、各施設間での情報共有をより充実させるなど患者さんが安心して地域で生活するための取り組みが多く、各施設での努力が見られました。



当院からも4題発表いたしました

本館4階病棟の竹岡照枝師長が「退院支援・退院調整における看護師の役割」というテーマで、



自宅での介護力に課題があるため、患者の希望である自宅退院がなかなか進まなかった事例に対して、地域のケアマネージャーを巻き込み多職種で関わることで退院できた事例の経過を発表しました。薬剤科の灘部晴美薬剤師は「薬剤総合評価調整加算についての取り組み」というテーマで、薬剤科が中心になり入院時の持参薬の確認とその後の投薬管理を行い他部署との連携を図り診療報酬上の加算に繋げていることを発表しました。リハビリテーション科からは2題の発表、宮下英二作業療法士が「担当制維持下でのリハビリ365日提供体制について」というテーマで、担当性を残したままチーム制を取り入れることで365日リハビリ提供ができる体制づくりを紹介、源田雄一郎言語聴覚士は「当院における摂食機能療養算定への取り組みについて」というテーマで、口から食べるという摂食機能改善のために多職種間での連携を図り、チームで行うことの重要性について発表しました。事務部門からは、総務課施設管理の濱田雅弘主任が「環境に優しい病院を目指して」というテーマで、新病院建設から今日までの特に省エネルギーの観点での成果について発表いたしました。それぞれの発表に対して、会場からは質問やアドバイスがあり、最後まで熱心な討議が繰り広げられました。

特別講演

特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会理事長
宮崎 久義 先生

「日本医療マネジメント学会が
目指してきたこと、そしてこれから」

特別講演では、平成11年からスタートした日本医療マネジメント学会の成り立ちから現在ま



が、改めて自然の驚異とそれに対する備えの重要性を再考させられました。

基調講演

市立宇和島病院 院長

梶原 伸介先生

「地域連携システム(きさいやネット)の現況と課題」



での発展状況が紹介されました。この学会が目指している「医療の質の向上」の為には、ツールとしてクリティカルパスがあり、医療連携、医療安全、教育・研修等があり、それを活用しながら、医療現場で働く多職種が連携して協働することが大切であると述べられました。また、この学会では、医療と福祉の連携が重要であるとの認識から、医療と福祉の両方に知識の深い専門職である医療福祉連携士の養成を平成22年から開始、現在356名の医療福祉連携士を輩出しています。超高齢化社会を迎えたいま、医療と介護、福祉の連携が着目され、地域包括ケアの構築が進みつつあり、今後は、本学会も医療だけでなく、介護・福祉の分野へと視野を広めて取り組んでいきたいとの事でした。

また、先生は熊本県にお住まいで、先の熊本地震で先生ご自身も被災されましたので、講演に先立ち被災状況や現在の様子もお話していただきました。地震発生後、ご自宅が一部破損し先生も一時期ご家族と車中泊をされたとのことでした。被災を免れ避難所へ行くことが出来たにも関わらず、中には車中泊によるエコノミー症候群で亡くられた方もおられたり、被災地ではまだまだ復興できていないところもたくさんある、特に熊本城や阿蘇神社の倒壊の様子は、改めて地震の恐さを思い知らされるものでした。被災していない地域では記憶もだんだん薄れていきます

基調講演では、市立宇和島病院院長の梶原伸介先生にお越しいただき、先生が運用されている「きさいやネット」についてお話して頂きました。

市立宇和島病院では、平成27年よりインターネットを利用した地域連携システム「きさいやネット」の運用が開始され、紹介患者さんのカルテ内容、画像、検査結果、処方内容、病理所見などを、患者さんの同意のもとで連携病院や診療所の医師が閲覧することができるようになりました。これにより、患者さんが現在どういう説明でどういう治療を受けているのか、結果がどうであったのかが迅速に閲覧することができ、診療に大いに役立ち、検査の重複や処方の重複を防ぐことができます。システムを利用するには市立宇和島病院との連携が必要で、問い合わせがあれば担当事務員が必要時は相手方へ向いて設定の方法や操作方を指導するなど普及に努めて

おられます。現在は、まだ一方のみの利用ですが、今後は双方向での利用に向けた取り組みを考えており、調剤薬局や訪問看護ステーション等にも広げていき、愛媛県全域の連携システムに広がっていくことを目指しているとのことでした。

大洲・喜多地区でも、昨年末に喜多医師会病院と市立大洲病院で医師らがインターネットで患者情報を共有するサーバーを立ち上げることが、愛媛新聞に掲載されていました。大洲市と内子町の医療機関や施設に参加を呼びかけ、病診連携や在宅診療支援に活用するとのこと、今後が期待されています。

この学会が目指すもの

宮崎久義理事長からのお話にもありましたが、この学会が目指していることは、「医療の質の向上」です。愛媛県内でこのような学会を定期的に開催することは、同じ地域性に属し、同じような課題に直面している医療機関同士の情報共有の場としてとても有意義です。また、当学会は医療機関で働くさまざまな職種を対象としており、医師や看護師にとどまらず、他の有資格者や事務員も一緒になって学ぶことができることが、最大の魅力だと思います。

当院の理念の中にも「自己研鑽に努め、質の高いチーム医療を実践します」と掲げています。このような場を大いに活用し、病院の理念に沿った医療を皆様にご提供できるよう、職員一丸となって努力していきます。

今回は、県内各所からお越しいただいた参加者の皆様に、大洲の特産品を味わっていただこうとJAのご協力の下、物産展を開催しましたが、大変好評で多くの方がお土産を手にして帰られました。

すぐそばにある絵画 院内美術館 18



『ブロード』

アルフォンス・マリア・ミュシャ 作

女性特有の上品な 慎み深さを感じる横顔像

今回ご紹介するのは、2階リハビリスタッフステーション受付にあるアル・ヌーヴォーの巨匠、ミュシャの傑作『ブロード』。金髪の女性をモデルとした異国趣味(東洋風)的作品である。金髪の女性が身に付けるビザンティン様式とエジプト美術を融合させたかのような、装飾性に富んだ異国の形状の髪飾りの描写は、単純かつ象徴性高く表現されており、ミュシャの意匠的創造力を存分に感じることができる。



アルフォンス・マリア・ミュシャ / 1860年 オーストリア帝国領モラヴィア(現代のチェコ)生まれ。

次号は鈴木信太郎「静物」をご紹介します。

健康講座

参加自由 入場無料

■会場 大洲中央病院 2階 第一研修室

■時間 午後2:00~3:00

※都合により内容が一部変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。 ※場所を変更する場合があります。

【開講予定】

◎1月26日(休)

「脂肪肝」といわれたら内科医師
おくすりの正しい服用法とおくすり手帳の上手な活用法薬剤師

◎2月22日(水)

「高血圧症」といわれたら内科医師
レッツゴー! 健康診断!!看護師

◎3月23日(休)

骨粗鬆症について整形外科
(体験型)始めよう!「ロコトレ」ロコモ予防体操リハビリテーション科

職場体験学習

11月21日、24日の2日間、大洲市内の中学生4名が当院に職場体験学習にきて下さいました。皆さん医療関係の仕事に就きたいとの希望があり、興味を持っての参加でした。

各職員へのインタビューでは、仕事の内容やその仕事に就くために今何をすべきかを積極的に質問する姿が見られ、中学生のうちからしっかり自分の将来を考えているのだと、非常に頼もしく感じました。また、患者さんにご協力いただき、看護体験を行ったのですが、お孫さんと同じ年頃であったため大変喜んでいただき、生徒の皆さんも良い体験になったのではないかと思います。更に、認定看護師からは救急蘇生法について教わり、息を切らしながらの実践となりました。このような職場体験学習で地域の生徒さんをお迎えする機会を頂戴する度に、私達もこの職業に就いた頃の新鮮な気持ちを感じます。今回ご参加下さった皆さんと、将来一緒に働くこともあるかと楽しみにしています。



職場体験担当 高岡 美智代

院内感染防止対策セミナー

11月21日、25日に開催された院内感染防止対策セミナーに参加しました。今回のセミナーは「冬季に発生する感染症」ということで、特にインフルエンザとノロウイルスの感染対策について学習しました。

まず初めに、インフルエンザとノロウイルスの感染対策のポイントの講義の後、学校給食に端を発したノロウイルスの集団感染の事例ビデオを見て、集団感染の恐ろしさを学びました。その後、患者さんが嘔吐をした場合の実際の処理方法について確認をしました。

体調が悪いのに無理をして出勤することは、却って患者さんを感染症の危険にさらすことになるので、体調が悪いときは、まずは受診をして自分自身の感染症の有無を把握することが重要であることを再確認しました。吐物処理に関しては、実際にリハビリ中の患者さんが嘔吐されるケースもあるので、正しい吐物の処理方法を練習して備えていこうと思います。

今回の講義で学んだことを活かし、自分自身が感染源にならないよう感染予防に努めていきます。



リハビリテーション科 濱田 悠介

ソフトバレーボール大会

12月7日大洲市総合体育館に於いて、院内ソフトバレーボール大会が行われました。今年は、前回の様な凍える寒さもなく、楽しい時間を過ごせました。

当日は46名の参加者があり、Aブロック3チーム、Bブロック3チームに分かれ総当たりで予選を行いました。私達Bチームは、事務所・栄養科・医療相談室・放射線科の混合チームでしたが、初めてやったとは思えないくらいのチームワークで、予選を勝ち抜き決勝に進出しました。決勝もフルセットの末、勝利しチームのみんなと喜びました。

普段はなかなか話ができない他部署の人と一緒に、笑ったり励ましたりして、改めてコミュニケーションの大切さを感じました。また、個人では特別賞をいただき、とてもうれしかったです。全員怪我もなく大会を終了し、楽しい一日となりました。今後も院内のレクリエーションに積極的に参加して、親睦を深めたいと思います。



放射線科 湊 節子

外来診療医師一覧表

診療科目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
内科	1診	近藤 誠司	休診日	大久保啓二	大久保啓二	近藤 誠司	大久保啓二
	2診	山上 隆司		山上 隆司	井上 明子	山上 隆司	山上 隆司
	3診	井上 明子		井上 明子	近藤 誠司	大久保啓二	非常勤
	4診			清家 愛理	清家 愛理		
外科	1診	森岡 徹	休診日	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹
	2診	満谷 臨		満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨
整形外科	1診	栗田 英明	休診日	冲永 昌弘	栗田 英明	冲永 昌弘	冲永 昌弘
	2診						栗田 英明
泌尿器科		清水 公治		清水 公治	清水 公治	清水 公治	清水 公治
脳神経外科	1診(新患)	西原 潤	休診日	西原 潤	藤原 聡	瀬野 利太 山下 大介 (隔週)	橋本 尚樹(第1-3) 戸田 茂樹(第2-4)
	2診(再診)	藤原 聡		藤原 聡	西原 潤		西原 潤

※武内成禮先生退職に伴い、花粉症外来は終了いたしました。

受付時間	午前8時00分～午前11時30分
診療開始時間	午前9時00分～ 担当医師は緊急手術などで変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。(休診になる場合あり)
休診日 (1～4月)	救急診療のみ…1月1日(日)、2月11日(土)、4月29日(土) 休診日……………火曜、水曜、1月2日(月)～4日(水)、1月9日(月)、3月20日(月)
お見舞い・面会時間	午後1時00分～午後9時00分

◎大洲・喜多地区の一週間の救急当番

- 金～日曜日…大洲中央病院
- 月曜日…市立大洲病院
- 火曜日…市立大洲病院
- 水曜日…加戸病院
- 木曜日…大洲記念病院(昼)、市立八幡浜病院(夜)

編集後記

明けましておめでとうございます。年齢を重ねるごとに、1年が飛ぶように過ぎていくと感じる今日この頃です。年齢といえば、昨年役目を終えた4代目の脇川橋は、昭和42年から使われており、半世紀市民の生活路として支えてくれました。当院もリニューアルして早3年、創立50周年も近い話ではなくなりました。今後も職員一丸となって、皆さまの健康を支える病院として頑張ってまいります。

発行/社会医療法人 北斗会 大洲中央病院
編集/広報委員会

寺尾 光司(事務部長・理事) /
京河 雅史(放射線科) / 伊場 紀子(看護副部長) /
道休 由佳里(看護師長) /
福田 修治(リハビリテーション科) /
大西 修平(リハビリテーション科) /
松本 奈緒(総務課) / 平田 香奈(栄養科) /
谷本 志津(医事課)